妹がグータラでエッチでどうしようもない！
アリナちゃん
サンプル版

もうお家にいたくないの！
ぐすん！
ぐすん！
お兄ちゃん、助けて！

アリナはとてもショックを受けたようだった。
必死に僕に懇願する。

あのね、お兄ちゃんの家においてもらう代わりに、
アリナ、お兄ちゃんにエッチな事してあげる！
一瞬ぽかんとしてしまう。アリナはいったい何を言ってるんだ。
は、はぁぁぁ？？？お前何を言ってるんだ？

ちょ、ちょっと待て！
兄妹でこんなこと
許されるわけが・・・！
そんなこと言わないで。
アリナ、お兄ちゃんのこと、
大好きなんだから。
だから、ね？
エッチしよ？
そう言い、アリナは僕に乳房を押し付けてきた。
そして僕の理性は崩壊した――。

うわぁ。お兄ちゃんのオチンチン、熱くてギンギンになっちゃってる♪
う、仕方ないだろ。お前の身体がエロすぎるせいだろ。
ピクン♪
妹の身体に本気で発情しちゃったんだ。じゃあもっと興奮させてあげる♪

アリナはゴロンとベッドに
仰向けになり、自ら股を開く。

アリナのおまんこはツルツルで、
割れ目から覗いているビラビラは
綺麗なピンク色をしていた。

ぷるんぷる

スタイルは抜群なのに
おまんこだけだと子供の様だ。

僕の肉棒は一回射精したばかりなのに
まだそそり立って硬いままだ。
僕はアリナの足を掴んで自分の
股間をアリナの股にくっつける。
肌からアリナの体温と緊張が伝わってくる。
ドキドキ
んんんん
ん
ん
ずいっ

アリナはしばらく苦しそうだったが、
そのままゴクゴクと精液を飲み始める。
ゴクゴク♪
ゴクゴク♪
その姿はもはや僕専用の
精液便女のようなものだった。

アリナ、あんまり大きな声出すと隣の部屋の人に聞こえちゃうぞ。
だ、だってぇ、お、お兄ちゃんのオチンチン、おっきいんだもん。
キュン♥
キュン♥
アリナの声は陶酔したようにとろんとしていた。
僕はアリナをいじめたい衝動にかられ、ガツンガツンとほじくり返すような激しいピストンを始めた。

その後も僕はアリナの身体を蹂躙するように犯し続けた。
あっ！
パンッ♥
パンッ♥
あっ！
あっ！
パンッ♥
パンッ♥
あっ！
パンッ♥
パンッ♥
あっ！
パンッ♥
パンッ♥
あっ！
アリナもすっかりセックスの虜になったようで、僕にしがみついて離れようとしない。